

甲子園球場から株分けされた蔦に覆われた
スパニッシュスタイルの元個人邸

25 青山ビル



青山ビルは、かつて天満や北浜に店を構えて活躍した実業家、野田源次郎の個人邸として1921年に建てられた。洋行して本場ヨーロッパの建築に触れていた野田は、外観を大林組が得意としたスパニッシュスタイル、個室は畳敷きだったものの屋上には庭園を設け、パーティーができるよう1階厨房からのリフトを設置し、地下はダンスホールにするなど、最新のモダンライフを実現した。戦後現オーナーの先代が譲り受けてテナントビルへと転用、青山ビルの代名詞となっている外壁を覆う蔦は、甲子園から株分けされたものである。(高岡伸一)

旧 称：野田源次郎邸
所在地：大阪市中央区伏見町2-2-6
建設年：1921年
構造・規模：RC造5階、地下1階
設 計：大林組

小さなホテルとして建てられた趣ある建物
中島らもの最初の事務所もここにあった

26 伏見ビル



青山ビルの西隣に建つ伏見ビルは、1923年にホテルとして建てられたといわれている。現在ギャラリーとして使われている1階にはかつて理髪店があり、今も大きな鏡が残る他、ビリヤード場もあったという。エントランスから左右対称に上っていく階段や、廊下に沿ってリズムカルに並ぶ個室の扉は、確かにホテルの雰囲気を感じさせる。昭和のはじめに現オーナーの先代が取得しテナントビルとなったが、転用時には外観も含めて大幅な改修を施したとみられる。全体に丸みを帯びたアールデコ調のデザインは、他の船場の近代建築とは趣の異なるやさしい印象。(高岡伸一)

旧 称：澤野ビルヂング
所在地：大阪市中央区伏見町 2-2-3
建設年：1923年
構造・規模：RC造3階（一部4階）
設 計：長田岩次郎

銀行をレストランにコンバージョン（用途変更）した
‘はしり’の建築

27 堺筋倶楽部



戦前の近代建築が多く残る北浜から少し離れた堺筋沿い、堺筋と長堀橋のちょうど間くらいに建つレストランは、1931年に建てられた銀行建築を2001年にコンバージョンしたもの。今でこそ大阪ではレトロ建築を使ったカフェやレストランがブームのようにになっているが、堺筋倶楽部はかなり早い時期の事例といえる。1階は元営業室の高い天井を活かしたイタリアン、2階と3階は役員室や電話交換室、金庫室といった小部屋をうまく活用したフレンチとなっている。また4階にはバンケットルームもあり、施設全体を使ったウェディングも可能。（高岡伸一）

旧 称：川崎貯蓄銀行大阪支店
所在地：大阪市中央区南船場 1-15-12
建設年：1931年
構造・規模：RC造4階、地下1階
設 計：川崎貯蓄銀行建築課

日本のガウディと呼ばれた建築家の想像力が発揮された
隠れた名建築

28 大阪商工信用金庫本店ビル 〔旧本町ビルディング〕

内部見学不可。平成 28 年秋新社屋完成予定。



戦後の高度経済成長期、船場には数多くのオフィスビルが建設された。当時日本の建築は高さ 31m (100 尺) に制限されていたので、御堂筋以外でも大通りに面した市街地には、スカイラインの揃った都市景観が形成された。このビルを特徴付けるのは、屋上の塔屋に設けられた巨大なレリーフ。1,000 名を超えると想定されたテナント入居者の憩いの場となる屋上広場を飾るものとして、ガウディに大きな影響を受けた建築家・今井兼次がデザインした。本町ビルディングは建築家・安藤忠雄による建て替えが計画されているが、このビルと街の歴史を継承するために、屋上のフェニックス・モザイクと、低層部のレリーフは保存される予定。(高岡伸一)

旧 称：東邦商事本町ビル
所在地：大阪市中央区本町 2-2-7
建設年：1961 年
構造・規模：SRC 造 9 階、地下 2 階
設 計：日建設計（塔屋レリーフ：今井兼次）

大阪を代表する建築家・村野藤吾の代表作の一つ
繊維輸出業界のシンボルの建築物

29 輸出繊維会館



大阪を拠点に数多くの名作を設計した建築家・村野藤吾の技が冴える。といっても、一見すると派手さのないビルらしい外観なので、多くの方が気にせずに通り過ぎてしまうかもしれない。しかし、眼を凝らせば、直線的なイタリア産トラバーチンの壁と、キラリと光る角を丸めたアルミサッシの取り合わせに、レトロ感と未来感が不思議に混じり合っている。西側に張り出した玄関庇や、内部の手すりも繊細な造形。内部の壁画は堂本印象によるもので、その中でも前室の壁画は“万邦交易”を表現している。こうしたアーティストとのコラボレーションも村野のお家芸だ。大阪の繊維輸出業界が生み出した、時代を超越した会館である。（倉方俊輔）

所在地：大阪市中央区備後町 3-4-9
建設年：1960 年
構造・規模：SRC造8階、地下3階
設 計：村野・森建築事務所（村野藤吾）

いとはん、こいはんや丁稚が今にも出てきそうな
船場の3階建て町家

30 北野家住宅



所在地：大阪市中央区平野町 4-2-6
建設年：1928年
構造・規模：木造3階
設 計：不詳

近代になったからといって、都心に鉄筋コンクリート造や鉄骨造のビルばかり建設されたわけではない。昭和時代の初期にも、木造の町家は相変わらず建てられた。しかし都市が高層化・高密化していくなか、近世にはなかった3階建て町家が登場する。大阪の都市部は空襲によって焼け野原と化したのが、この北野家は焼夷弾の直撃を受けたにもかかわらず奇跡的に残った。現在はオーナーによって丁寧に手入れされており、まるで昨日まで住んでいたかのように家具・調度が残されていて、往時の船場商人の暮らしぶりを今に伝えてくれる。(高岡伸一)

商都船場の商家が今でもそこにある
実は木造の商店建築

31 清水猛商店



所在地：
大阪市中央区淡路町 3-5-6
建設年：1924 年
構造・規模：木造 3 階
設 計：住友工作部（小川安一郎）

船場によく見られる大大阪時代のユニークな近代建築のひとつにみえるが、実はこの 3 階建は木造。「家具室内装飾」と看板を掲げた店舗の奥には通り庭があり、更に奥には純和風の 3 階建住宅の居住棟が続く。つまり清水猛商店は店舗のデザインこそ洋風であるが、全体の構成と生活スタイルは、典型的な町家の表屋造りで、船場の商家が町家から西洋建築へと移行する過渡期を示す貴重な事例といえる。これを設計したのは当時住友工作部に所属していた小川安一郎。小川は特に室内装飾を得意とし、住友ビルディングでもその手腕を振るった建築家。（高岡伸一）

船場のいとさんが通う花嫁学校としても使われていた
多くの人に愛されるコミュニティビルの存在

32 芝川ビル



個性的な外観で、オフィス街の中でも存在感を放っている。芝川家は江戸時代からこの地に店を構えてきた。南米のマヤやインカの遺跡を連想させる濃厚なデザインには、鉄筋コンクリート造のビル建設に踏み切った当主・芝川又四郎の意向が強く反映している。自家用として建てられ、戦前期には「芝蘭社家政学園」という花嫁学校としても使われた。現在はビルの雰囲気を生かしたテナントが多く入居。地下の金庫室を改装したカフェや、さまざまなイベントに用いられる屋上テラスなど、その使い方においても、その個性によって地域に貢献している。（倉方俊輔）

所在地：大阪市中央区伏見町 3-3-3

建設年：1927年

構造・規模：RC造4階、地下1階

設計：（基本設計及び構造設計）澁谷五郎、（意匠設計）本間乙彦

旧館のDNAを継承しながら
増築が街並みを構成してきた好例

33 長瀬産業株式会社大阪本社ビル



1921年の第一次都市計画事業に基づいて拡幅された四つ橋筋にも、昭和初期に建てられた近代建築がいくつか残る。かつて流れていた西横堀川と立売堀川が合流する辺りに建てられた、長瀬産業株式会社大阪本社ビルもそのひとつ。1832年創業の歴史をもつ長瀬商店（当時）が、関東大震災を機に耐震耐火の建築を計画した。設計したのは初代通天閣で知られる建築家・設楽貞雄。長瀬産業は事業の拡大と共に、当初のデザインを引き継ぎながら改修と増築を重ねてきたが、特に1982年に建てた10階建の高層ビルは現代建築としても優れた作品となっており、一企業の沿革がひとつの街並みを形成していて素晴らしい。（高岡伸一）

所在地：大阪市西区新町 1-1-17

建設年：【旧館】1928年、【新館】1982年

構造・規模：【旧館】RC造4階地下1階【新館】SRC造、S造10階、地下2階

設計：【旧館】設楽建築工務所（設楽貞雄）、【新館】竹中工務店（永田祐三）

日本のプロテスタント最古のロマネスク様式教会
レンガの積み方は、フランス式

34 日本基督教団大阪教会



大阪市西区にある大阪教会は、1874年に創立された梅元町公会を前身とする、日本で最も古い歴史をもつプロテスタント教会のひとつ。現在の教会堂は1922年に、ウィリアム・メレル・ヴォーリスによって設計された。全体に半円アーチを多用したロマネスク様式で、外壁はフランス積みのレンガ壁。礼拝堂は2階に設けられ、装飾を抑えた静寂の空間が広がる。屋根の小屋組が露出するオープン・ルーフで、巨大な木造のキング・ポスト・トラスが迫力。1995年の阪神大震災で被災して被害を受けたが、鉄骨による補強などで見事に復旧された。(高岡伸一)

所在地：大阪市西区江戸堀 1-23-17
建設年：1922年
構造・規模：(聖堂) 鉄骨煉瓦造3階、(尖塔) SRC造6階
設計：ヴォーリス建築事務所(ウィリアム・メレル・ヴォーリス)

テナントのイタリアンレストラン
「ダル ポンピエーレ」の意味は「消防士」

35 今橋ビルヂング 〔旧大阪市中央消防署今橋出張所〕



旧称：大阪市中央消防署今橋出張所
所在地：大阪市中央区今橋 4-5-19
建設年：1925 年
構造・規模：RC 造 4 階
設 計：不詳

「ダル ポンピエーレ」とはイタリア語で「消防士」という意味。人気のイタリアンが店を構える小ぶりな近代建築は、かつて大阪市の消防署だった。天井の高い1階は消防車を収納する車庫で、バルコニーの下には消防署であった証のように、赤いランプが残されている。近年このエリアには上質な飲食店やユニークな店舗が次々出店、ダル ポンピエーレをはじめ、大阪倶楽部や住友ビルディングといったシックな近代建築もあり、大人が楽しめるシックな街として注目を集めている。(高岡伸一)